

意見公募によって提出いただいた意見及び反映結果

施策案の名称	とりで行政経営改革プラン2020 (案)	
意見募集期間	令和2年10月15日から令和2年11月14日まで	
意見提出者数	2人	
提出意見数	2件	
意見項目数	10件	
意見提出の内訳	直接窓口へ持参	1人 1件
	郵送	人 件
	ファクス	人 件
	電子メール	1人 1件
意見の反映結果	A 案に反映させたもの (反映・修正箇所がわかるものを添付)	件
	B 意見の趣旨が既に案に盛り込まれているもの	件
	C 今後の取り組みにおいて参考にするもの	10件
	D 案に反映できないもの	件
	E その他 (感想・賛否のみなど)	件
匿名等による意見提出者数	人	

※意見公募は政策等の賛否を問うものではありません。有用な意見を政策等に反映させるため、意見の内容に着目し、これを考慮した市 (実施機関) の考え方を掲載しています

※類似の意見に対しては、まとめて市 (実施機関) の考え方を掲載したものがある場合は、意見項目数と一致しません

※詳細は別紙のとおり

提出された意見と市の考え方

番号	該当ページ	意見	市（実施機関）の考え方	反映区分
1	16, 17	枠配分方式は他の自治体に先例がありますが、機能しないケースとして事業の分類が不十分な場合があります。特に新規事業について、財源を別枠で設けるのか、既存事業から捻出するのか、その扱いを明確にしておいた方が良いかと思えます。	ご意見ありがとうございます。まちの未来のための政策的な事業は別枠で上限を定め、全庁的な優先順位をつけることにより、限られた予算の中で、必要な事業のうち特に優先度の高い事業を選択し、さらなる「選択と集中」を進めてまいります。	C
2	18	すでに多くの手続きで捺印は廃止されていますが、国の動向に合わせて、さらなる精査を進めていただきたいと思えます。直近の広報誌でも認印持参の記載が見られますが、署名と認印で証明性には差がないと考えるのですが。	国においても押印の見直しが進められておりますが、本市におきましても、行政手続きにおける押印の必要性について、現在全庁的に調査・検討を行っているところです。	C
3	30	NPO、ボランティア団体は慢性的な財源不足の状態にあることが多く、行政の一定の補助は必要だと思います。一方で税金を投入する以上、選定にあたっては公益性・公平性を重視することが求められます。趣味的・自己実現的な活動には一線を引くほか、成果に対して評価を行うシステムの確立についてご一考願います。	市では市民団体が行う公益事業の立ち上げ期（前期3年＋後期3年の最長6年）を支援するための協働提案型公募補助制度を運用しています。当該制度では選定にあたって学識経験者等による第三者委員会によって公益性や社会的ニーズなどの視点から、事業計画段階での実現可能性などをもとに審査選定が行われております。ご意見にあります公益事業の評価については、どのような数値で成果を図るのかなど、先進市の事例などをもとに、引き続き研究を進めてまいります。	C

4	33	<p>高齢化率の高い取手市において、紙媒体からデジタルへの移行にはある程度の時間が必要かと思いません。特に市政の基本情報を伝える広報誌については、すべての市民にいきわたることが第一に求められます。HPの充実は有難いのですが、情報弱者への配慮も引き続きお願いします。</p>	<p>取手市では公式LINEを始めるなど、情報発信のデジタル化を進める一方、より多くの人へ適切な情報を発信できるよう、ユニバーサルデザインフォントの導入や全ページのフルカラー化など、広報紙のリニューアルを行ってまいりました。今後も幅広い世代により多く適切な情報発信ができるよう努めてまいります。</p> <p>頂いたご意見は今後の取組の参考とさせていただきます。</p>	C
5		<p>(取手市は) 全体としては、住みやすく、適度な利便性もあり、常磐線沿線の柏や松戸よりも落ち着いた環境に満足しています。しかし、折角の茨城県の都心への玄関口という好立地を生かしきれないまま、人口減少や商店街の衰退などが進み、県南の話題をつくば市や守谷市にとられている現状をはがゆく感じています。今回の行政経営改革プランを読んでみても、内容的には華がなく、内向きの印象であり、これで取手市が活性化するという期待が湧いてきません。その理由は何かと考えてみますと、市の行政を司る方々が取手市が本来持っている、あるいは持つべき魅力・資産を十分認識されていないからではないかとの思いに至りました。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「とりで行政経営改革プラン2020」は組織や事業の効率化と質の向上を図り、より強固な行政経営基盤を築くことで、持続可能な自治体経営を続けるためのプランとなります。</p> <p>ご指摘にありますような、まちづくり全般に対する市の考え方や施策の展開方針は、総合計画である「とりで未来創造プラン2020」でお示しさせていただいております。</p> <p>頂いたご意見は今後の取組の参考とさせていただきます。</p>	C
6		<p>街づくりという視点からのコメント</p> <p>・人口動態</p> <p>取手市の人口は、藤代町との合併で10万人を維持していますが、じわじわと減少しつつあり、プランにおいてもかろうじて減少のスピードを遅くするという目標に留まり、増加に転じることを諦めて</p>	<p>「とりで行政経営改革プラン2020」は組織や事業の効率化と質の向上を図り、より強固な行政経営基盤を築くことで、持続可能な自治体経営を続けるためのプランとなります。</p> <p>ご指摘にありますような、まちづくり全般に対する市の考え方や施策の展開方針は、総合計画</p>	C

		<p>いるような感じですが。しかし同じ県南でもつくば市や守谷市のように人口が増加している地域もあり、取手市も何とか増加に転じ、15万～20万都市を目指すプランがあってもよいのではないのでしょうか？ 昭和50年代では、街に子供の声が溢れ、団地の公園で子供をみかけないことはない状況でしたが、今では、子供の姿はほとんど見かけず、通りを歩いているのは老人ばかりという変わりようです。ここ数年、JR取手駅周辺にやや戸数の多いマンションが建てられましたが、多くの新住民が市内の別の場所からの転居者では市の人口は増えず、かえって転居前の地域の空き家が増えるばかりです。単なる人口推移だけでなく、人の市への流入・市外への流出といった動態統計も示すべきではないのでしょうか？ 外部からの人の流入が少ないとすれば、いくつか理由が考えられます。</p>	<p>である「とりで未来創造プラン2020」でお示しさせていただいております。また、転入、転出、人口推計などを含めた人口動向についても、「とりで未来創造プラン2020」に記載されております。</p>	
7		<p>生活圏としての充実度・魅力度の不足</p> <p>①商業施設が完備していない。イトーヨーカドーや東急ストアの撤退で大型店舗が不足しており、商店街の形成も不十分。</p> <p>②子育て環境の充実度不足。子供を安心して遊ばせられるような公園・広場がない。</p> <p>③市内交通ネットワークの不備。バスは便数が少なく、車がないと生活が不自由な地域が多い。</p> <p>④高齢者にとって住みやすいコミュニティの形成不足。</p> <p>⑤取手市の魅力のアピール度不足</p>	<p>「とりで行政経営改革プラン2020」は組織や事業の効率化と質の向上を図り、より強固な行政経営基盤を築くことで、持続可能な自治体経営を続けるためのプランとなります。</p> <p>ご指摘にありますような、まちづくり全般に対する市の考え方や施策の展開方針は、総合計画である「とりで未来創造プラン2020」でお示しさせていただいております。</p>	C
8		<p>市内外の人々のモビリティ不足</p> <p>取手市が県南および近隣市町村のハブとして機能するような体制が不十分ため、市内外の人を吸引する力に欠けている。市内でも交通</p>	<p>「とりで行政経営改革プラン2020」は組織や事業の効率化と質の向上を図り、より強固な行政経営基盤を築くことで、持続可能な自治体経営を続けるためのプ</p>	C

		ネットワークの未整備で人のモビリティが高まらない。車だけを当てにした市内だけを考えた交通ネットワークでは街づくりはできない。交通ネットワークは県南レベルで考えるべき。	ランとなります。 ご指摘にありますような、まちづくり全般に対する市の考え方や施策の展開方針は、総合計画である「とりで未来創造プラン2020」でお示しさせていただいております。	
9		市の活性化を阻害する地主の土地利用意識 駅周辺の安易な駐車場乱立や中途半端なマンション建設、パチンコ店その他重複する店舗の誘致の失敗（例：リボンとりでの宮脇書店など）一方で多くの店舗が撤退し、駅前でも空き店・室が目立つ。近隣市町村からの人を含め、取手に来て買い物をし、食事をしようという人達を増やすための対策は考えられているのか？ 桑原地区に出来る予定のショッピングセンターは逆に従来からある商店街を更に衰退させるかもしれない、大局的に市が発展するような対策を考えるべきでは？ 駅ビル・アトレの5階のレストラン街も、サイゼリアと田中屋のみとなり、メニューの選択肢が限定されているため、他の地域のフードコートのような賑わいが無い。これらの問題は、市と地主とのコラボにより有効な土地活用の方策を考える必要性を示唆している。	「とりで行政経営改革プラン2020」は組織や事業の効率化と質の向上を図り、より強固な行政経営基盤を築くことで、持続可能な自治体経営を続けるためのプランとなります。 ご指摘にありますような、まちづくり全般に対する市の考え方や施策の展開方針は、総合計画である「とりで未来創造プラン2020」でお示しさせていただいております。	C
10		人が集まる場所の立地条件の悪さ 市役所、図書館、市民会館などは、いずれも駅から徒歩で行くには遠く、バスの本数がすくないためアクセスしにくい。特に車を持たない高齢者には利用しづらい。取手市は坂が多く高齢市民にとっては徒歩での移動は大変でモビリティが低下している。今後、地域によっては買い物難民、医療難民が増える懸念がある。従って、市としてはこうした住民、特に高齢	「とりで行政経営改革プラン2020」は組織や事業の効率化と質の向上を図り、より強固な行政経営基盤を築くことで、持続可能な自治体経営を続けるためのプランとなります。 ご指摘にありますような、まちづくり全般に対する市の考え方や施策の展開方針は、総合計画である「とりで未来創造プラン2020」でお示しさせていただいております。	C

		者でも暮らしやすい街づくりを目指す必要があり他の都市での実施例を参考にしてもらいたい。	その他、まちづくりに関していただいたご意見につきましては、関係各課で共有させていただき、今後の参考とさせていただきます。 貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。	
--	--	---	--	--

※意見公募は政策等の賛否を問うものではありません。有用な意見を政策等に反映させるため意見の内容に着目し、これを考慮した市（実施機関）の考え方を掲載しています